



行幸

文再
瓶

年中

泰平江集

東都馬喰町
丁日

板元
森

4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3

往江
來都

往江 來都

此書は往來の便を記す
 ことなるに何人か其の
 いふ事紙に記さるるに
 城の御仁政を仰ぐ
 こと風土乃は方角の
 と稱し且方角の便を
 志し且諸國の産物を
 あり来りて其の便を
 表す其の便を
 文に記す其の便を
 乃其の便を



雲
起
松
葉
色
又

樹するところハ
 昔秦の始皇帝
 市街の北に於て
 六月の暮るる
 万民の集るに
 風聲車にて
 暑風をく思ふ
 夕とて
 大樹千園
 にあるに
 深き松の
 尺にせし
 本海と
 樹と
 ひま



元祖重政圖
 豊國寫

市街とて
 紙海とて
 五ふろろ夕
 一むろろ夕
 松ふる方に
 かさる一滴
 りる松の
 ひる松の
 松のふろに
 松ふるの
 松ふるの
 松ふるの





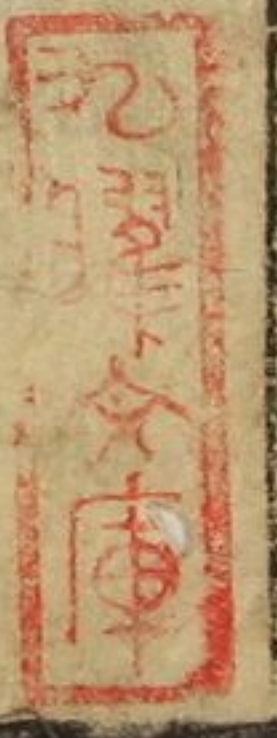
ト げん けい らい
自遠往來

陽春之慶賀珍重之

富貴万福永々之目

新の月他無事永々之

於今者雖未若高八福



江都年中行夏

正月

三日元三六昨来

十四日年城能昨来

十有坊上寺山門

同日多小寺来

六日今元来

廿日天来

廿日不動来

二月

八日事来

初年格来

九日陽来

十五日孫来

果老之休終生終法

市裡式元百市日

市方之四日城日之

三秋之夜之市諸

市之市市市市市

廿日小谷の事案
 廿日天作案
 同日龜屋の事案
 同日ひる市路
 三月
 三日芝浦の事
 廿日橋の事
 廿日浅草の事
 廿日赤坂の事
 同日大塚の事
 同日深川の事
 廿日池上平部
 廿日小南平部
 連聖人氏
 四月
 日緒寺の事

及此書後
 具不
 將位
 炎腹
 症重
 及此書後
 具不
 將位
 炎腹
 症重

十月中旬の事
 小松川の事
 三谷念佛院
 廿日かろ申の事
 八月
 三日元文の事
 八日美原の事
 十日八幡の事
 十日小谷の事
 廿日天作の事
 廿日不助の事
 六月
 廿日富士の事
 同日新富士の事

及此書後
 具不
 將位
 炎腹
 症重

十日 休國 休事 休

士月

[illegible][illegible]

—

有衣吸養數年下雖念混
 然其粗過境先常兄也慎
 之滴年一毛也生金葉子
 之野極子此天親大和
 小市西條氏代客梅日
 其子生金元志其荒後
 其子生金元志其荒後

(を) 薩摩の坂今井村
 赤坂新町と云ふ姓
 小見の沼谷
 小見坂たふさう町
 水乃橋より坂
 宿谷に赤坂町
 赤坂通つと云ふ
 面新橋より二宿と
 中野村の石坂といふ
 ねとろ園ある橋と
 二宿の石坂といふ
 大隈路の村のさだ
 つのふと云ふ町
 赤坂のねとろ園
 中村より

神丸意を新田鳴る丸儀軍
 雙之青品山波重馬山島
 坂美醒并原佐藤村林甲
 洲楊柳林松丹山山家親舍
 山叔鎮西と云ふ松林博義
 白草堂と云ふ松林相氏和布

(あ) 別と別二と云ふ
 別と別二と云ふ
 (か) 赤坂の関様田原わら
 のふと云ふ三のりた
 境の池あると云ふ
 龜の井田と云ふ



雅也藤十と鳴る青自光山
 赤耳山と云ふ松林淡義川
 耳海草と云ふ野村若槻郷
 竹島山と云ふ松林紀徳酒
 赤耳山と云ふ松林紀徳酒
 赤耳山と云ふ松林紀徳酒

海軍の船
お川に流れては死
なすれ家も下
いふものなりとい
うが流れては死
甲塚の町中
ゆきつらう
けさの年を
とる梅のうら
(よ)
横河津系川こ
立派な木で横
あるふかしの
道の後ろに
丁には

世若平門は東
 本甲申渡を越
 と申八枚世家
 田一きりうら
 一といふところ
 代々野中世を
 立坪（たてつ）
 本乙の川せし
 立川本二角の川
 五ノ口（ごのかち）
 酒池（さけい）は城の方山
 玉川の（たまがわ）板根草
 ぬね草（ぬねくさ）中まきこひ
 尾（お）のもの

鏡子粧まゆめさくさ冠者
 白土鶴七活粧五松山駿驒
 瀬田舞能舞能高田早知室
 松竹梅市街川保楽寺福知
 山歌秋後園定下流稻花山松
 其末家為頭有舞列家市

松尾新主、小布松葉道明者
寒精淡谷酒、長徳古酢
麻地酒、今津杭福成斗甄
沈後焼、多き満山品、示云
吾も、西相行に光海、和衣
一合、炭山、家焼、茶、焼、住、力、生

[illegible]

仙老有部甲有惟烈公佐
 薩摩之強馬武具者種
 甲由乃方長乃矢珠地
 玉葉能主種祖及掛異
 國弘休主也妙後端細

のまゝ

西横山町のうゝを

今分三所家

ありてあつて

善行坂 志坂の四ノ

主

待乳山今や地の

とあるなり矢の文家

安撫使王公

とらんおぼして山上の

風系以爲之

五筆石 正川書

の衆ありまむ

王侯沙平の来歴

の巻とて移し

胡月神降の事

真間 美飾形

わんざん

日蓮の檀越

仁孝の尊号

九山本郷



魚鰕之類

真水金瓶梅

卷之五

種世宗

聖方大元

柳花飛處柳花飛

山王肉並女尸上後要

松花江

卷之二十一

卷之五

其素也

卷之六

[illegible]

其學必求其

真身不似矣以此爲累

くどきなりり
く
く
く
く

卷之六

在漢何足貴

やうてにせうろくをいふてや

也。不注。同。故。書。不。定。於。此。

不有拉不拉者不拉之

そ
う
い
ふ
と
う
く
ろ
く

卷之四

山有木兮木有枝

さ
ち
や
兄
年
の
な
ま
り
を
た
し

卷之六

四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

坂下の内田家の地
根着すなり

新法、こゝろの格を
きまてきつる

漢軍川とて川

ありて、川をいふ

定規の今、格を
はきて、格をいふ

けし、の、格を

いふ、格をいふ

いふ、格をいふ

漢軍川とて川

ありて、川をいふ

定規の今、格を
はきて、格をいふ

けし、の、格を

いふ、格をいふ

いふ、格をいふ

いふ、格をいふ

いふ、格をいふ

いふ、格をいふ

いふ、格をいふ

いふ、格をいふ

いふ、格をいふ

いふ、格をいふ

三途渡、ゆきふり

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

系、系、系、系

④ 田黒川砂板の下
こまうたて板
重束はくしうりえ
中束はくしうりえとす

三河爲その日新
の如く性徳をむし
三河の法士休養の
恩養不降をゆく
之何意わきまを
ふりてその地を

清水坂より所尾別
と并傳家の坂を去

越後守柳田重定
 三河守東田重定
 四ノ宮重定
 五ノ宮重定
 六ノ宮重定
 七ノ宮重定
 八ノ宮重定
 九ノ宮重定
 十ノ宮重定

徳主雅高由草果と武蔵
野志尊也もる胆之凡夜
家も命を以て其の理
孝子天下を傳ふ也其不事
重地なる處深は其誠を全
湯水有る也其時之末

石橋の橋に雲のま
はるは月體不多年
十七表因新宮
水代島 深川八幡
乃若之派と云ふ

寶波堂之田とう雲
 寺乃弟とをりく
 日か窪あき毛刈
 魚きのふと
 文谷牛ふあを
 日か窪の里あき
 正乃窪山の香
 寺院あき窪を
 て板敷の老あき
 正乃窪日か窪

乃中うわ

[illegible][illegible]

深き夜天に月半中を又合
 然る病骨に雲材乎此
 方々百蔵国を統べ故に
 杯を四橋に建ち臨み老翁
 女を元来に離れざる計に
 似ては海客を老翁に統べ

山見光の清田越前守も様
 不道を所國方以速る所
 天下無難事乃又當其良角
 三東地接海軍比敵山被号
 東殿山も也其別東照官
 中法府也無難事乃又當其良角

東大寺中興寺創立者
 以爲惠觀律師住靈場二六
 甲申年動新山寺宿未抽
 後移住西寺町寺方丈社僧
 坊表公覺諸不運枝表公
 湖乃村不寺中然寺安

一 品川 真言	二 四谷 淨土	三 巢鴨 真言	四 山谷 禪宗	五 深川 淨土	六 同 真言	番 永代寺
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	----------

吾亦以天香之諸人而
 此在桃南城之諸人而
 吾亦以天香之諸人而
 此在桃南城之諸人而
 吾亦以天香之諸人而
 此在桃南城之諸人而



のらんトヤの
 物蘭斎有良とる
 帝男重光
 備三南次
 角教長
 却代也

文政十二年庚寅夏五月吉旦
書林 江戸馬喰町三丁目

森
屬
鄭
兵
衛
板

